



■ 現状と課題

障害者の余暇活動支援において、家族等の送迎負担が大きい課題があり、障害者の公共交通機関の利用促進のため安全安心に地方公共交通を利用できる仕組みづくりが求められている。

■ 目指す社会

市内のあらゆる交通サービスをシームレスに接続する「ハンズフリーチケッティングサービス」を実装し、高齢者、障害者等の移動制約者を含むすべての市民が不自由なく快適に移動できる社会を目指す。

■ R6取組概要

健康・スポーツ科学センター（WIT）に来所する障害者の公共交通機関によるバス移動をハンズフリーチケッティングで支援する実証を実施

■ R6実証内容・結果

概要	<ul style="list-style-type: none"> バス移動におけるハンズフリーチケッティングの活用に向けた実証（バス運賃の決済含む） 移動時における保護者等による見守りサービスの有用性の検証
日程	R7年1月22日、25日、29日、2月12日
実施者	つくばハンズフリーチケッティング共同事業体（つくば市、筑波大学、日立製作所、関東鉄道、今川商事）
対象	筑波大学澤江淮教授が主催する障害者の健康支援イベントに参加する障害者（知的障害、発達障害等）
実証結果	<ul style="list-style-type: none"> ビーコン検知データからチケッティングシステムによる決済情報を問題なく生成することができた。 バス降車時はアプリ画面を運転手に提示する必要がある運用で実証は実施したが、実装時にはハンズフリーでスマホを取り出すことなく降車できるような技術面又は運用面での改善が必要



■ 今後の展開

- 市内のあらゆる交通サービスにハンズフリーチケッティングを導入するため対象となる交通機関を拡大する。
- 障害者や高齢者等の移動制約者の公共交通機関利用の促進を可能にするハンズフリーチケッティングの取組を継続的に実施する。
- ハンズフリーチケッティングを活用した観光施設や商業施設等との施設連携の有用性を検証し、交通サービスの付加価値の創出を図る。